

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月12日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材株式会社  
 コード番号 4216 URL <https://www.asahi-yukizai.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中野 賀津也  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部長 (氏名) 亀井 学 (TEL) 03-5826-8820  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	38,051	△7.0	1,860	△36.8	1,921	△34.9	1,435	△32.5
2020年3月期第3四半期	40,912	△2.5	2,943	△0.4	2,951	△5.4	2,128	△28.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 1,799百万円(△2.8%) 2020年3月期第3四半期 1,851百万円(△16.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	74.98	—
2020年3月期第3四半期	111.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	66,193	45,115	67.5	2,334.16
2020年3月期	65,779	44,241	66.7	2,292.23

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 44,705百万円 2020年3月期 43,856百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2021年3月期	—	25.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,000	△4.6	2,900	△33.6	3,000	△31.7	2,250	△28.3	117.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) —、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	19,800,400株	2020年3月期	19,800,400株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2021年3月期3Q	648,079株	2020年3月期	668,009株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	19,140,342株	2020年3月期3Q	19,132,830株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項については添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	9
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループにおける経営環境は、国内では新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を取りながら通常の経済活動へと復帰が模索されておりましたが、当四半期の後半には再び同感染症の拡大傾向が見られるなど、予断を許さない状況にありました。自動車生産は、第2四半期の後半より前年並みに復調し、第3四半期も前年並みの生産台数となりました。一方、設備投資は、すでに着手されている案件は予定どおり進んだものの、未着手の定期修繕等については延期や見直し等が行われ、設備更新需要が低迷しました。半導体分野においては引き続き5Gやデータセンター等での半導体需要が堅調に推移しました。また、半導体製造設備の投資においても、概ね堅調に推移しました。

当社グループの事業活動においては、営業活動は主に電話、メール及びWEBを活用して行いつつ、可能な範囲で対面による営業活動も取り入れ、お客様とのコミュニケーション不足を補いました。また、本社や営業所においては、引き続き在宅勤務を推奨し、工場や倉庫においては、部外者の立ち入りを原則禁止するとともに、マスク着用、手洗いうがいの励行をはじめとした感染症予防策を講じ、事業運営を行いました。

このような事業環境のもと、鋭意営業活動を推進しましたが、上期の落ち込みから完全に回復するには至らず、累計の売上高は前年度に比べて減収となりました。また、営業利益は、売上高の減少による影響のほか、2020年3月末の株価低迷による年金資産減少の影響を受け労務費が増加した影響もあり、減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は38,051百万円(前年同期比△7.0%)となり、営業利益は1,860百万円(前年同期比△36.8%)、経常利益は1,921百万円(前年同期比△34.9%)、親会社株主に帰属する当期純利益は、1,435百万円(前年同期比△32.5%)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① 管材システム事業

管材システム事業は、主力製品である樹脂バルブを武器に、耐食問題の解決と樹脂管材の機能性を追求した製品開発により樹脂管材市場を拡大することを基本戦略として、国内外での使用領域の拡大とお客様のお役に立ちに注力した営業活動を推進しています。

国内向けの樹脂バルブ等の基幹製品は、第2四半期同様に、既に着手されているプラント工事等の大型案件については継続して取り込みができていたものの、未着手の定期修繕等については延期や実施規模の見直し等が行われたため販売が低迷し、売上は前年度を下回りました。

半導体製造装置向けのダイマトリックス製品は、韓国において2021年に向けた調整局面に入ったものの、台湾や中国向けの需要が回復し、当四半期においても安定した受注を得ることができました。

海外では、米国において、半導体関連需要が少しずつ増加しているものの、景気回復の遅れなどから受注は継続して低迷し、売上は前年度を下回りました。一方、中国では、徐々に経済活動の制限が解除されたものの、米中貿易摩擦による投資の抑制などの影響を受け、本格的な需要復調には至らず、売上は前年度を下回りました。

利益面においては、売上の減少に加え、労務費の増加もあり、前年度を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は22,733百万円(前年同期比△5.0%)、営業利益は1,525百万円(前年同期比△24.5%)となりました。

#### ② 樹脂事業

樹脂事業の素形材用途向けの製品は、国内においてお客様の製造品質の改善につながる提案や新規の取引先様への営業活動を、海外においては今後拡大する需要に合わせた施策を推進した結果、新規のお客様との取引が増え、また新型コロナウイルス感染症により落ち込んでいた国内自動車生産が前年並みに回復したこともあり売上を伸ばしましたが、上期の落ち込みを補うまでには至りませんでした。

発泡材料製品のうち、ノンフロンシステムを用いた現場発泡断熱材製品は、施工のしやすさと施工品質を高めた原液システムと吹付施工機械を活用した営業に注力した結果、新規の取引先様も増え、売上は前年を上回りました。トンネル掘削時に用いる地盤や地山の固結材製品においては、高い固結強度や止水性が評価され採用現場が増えたものの売上は前年を下回りました。また、断熱材の吹付施工を請け負う(株)ランドウィックにおいては、工事案件が前年に比べ減少したため、受注確保に注力しました。

電子材料用途を主力製品とする高機能樹脂は、半導体の微細化に対応している国内の大手レジストメーカー向け低メタル製品が好調で、売上は前年を上回りました。海外では中国において半導体や液晶パネル向けの製品の国産化が進んだことで需要が伸び、売上は前年を上回りました。

利益面においては、上期の落ち込みから完全に回復するまでには至らず前年を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は11,108百万円(前年同期比△12.0%)、営業利益は423百万円(前年同期比△41.5%)となりました。

### ③ 水処理・資源開発事業

水処理・資源開発事業の水処理事業においては、民間の産業廃水処理施設の案件や上下水道施設の官庁入札案件を受注でき、受注金額は前年度を上回りましたが、新型コロナウイルス感染拡大による工事着工の延期や工事進捗の遅延により売上は前年度を下回りました。

資源開発事業は、温泉設備工事や地熱井掘削工事において受注を確保でき、工事進捗も概ね順調であったことから、売上は前年度を上回りました。

環境薬剤事業は、民間産業廃水施設の薬剤需要の減少等により売上は前年度を下回りました。メンテナンス事業は、修繕工事の受注が持ち直しつつあるものの売上は前年度を下回りました。

利益面では、請負工事の一部で進捗遅れが出たことに加え、固定費の増加もあり、前年に比べて赤字となりました。

この結果、当セグメントの売上高は4,210百万円(前年同期比△3.8%)、営業損失は192百万円(前年同期の営業利益は52百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は66,193百万円となり、前連結会計年度末に比べ414百万円増加しました。これは主に投資有価証券の時価評価により固定資産が増加したことによるものです。負債は21,077百万円となり、前連結会計年度末に比べ461百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金が減少したことによるものです。純資産は45,115百万円となり、前連結会計年度末に比べ874百万円増加しました。これは配当金の支払いはありましたが、それを上回る親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年10月30日に公表しました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,232	9,412
受取手形及び売掛金	13,997	13,470
電子記録債権	3,196	3,145
たな卸資産	12,099	12,806
その他	620	995
貸倒引当金	△59	△58
流動資産合計	40,084	39,771
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,471	6,458
その他(純額)	11,823	11,870
有形固定資産合計	18,293	18,328
無形固定資産		
のれん	1,193	1,103
その他	995	1,097
無形固定資産合計	2,189	2,200
投資その他の資産		
投資有価証券	2,389	3,135
退職給付に係る資産	2,040	2,029
その他	804	750
貸倒引当金	△20	△21
投資その他の資産合計	5,213	5,893
固定資産合計	25,695	26,422
資産合計	65,779	66,193
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,877	5,072
電子記録債務	3,251	3,506
短期借入金	3,654	4,093
未払法人税等	614	176
その他	3,852	3,863
流動負債合計	17,248	16,711
固定負債		
長期借入金	315	255
退職給付に係る負債	1,728	1,775
株式給付引当金	30	38
役員株式給付引当金	78	58
長期前受金	753	702
その他	1,385	1,538
固定負債合計	4,290	4,367
負債合計	21,538	21,077
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,496	8,496
利益剰余金	31,100	31,574
自己株式	△1,136	△1,099
株主資本合計	43,460	43,971
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	191	742
為替換算調整勘定	527	254
退職給付に係る調整累計額	△323	△263
その他の包括利益累計額合計	396	734
非支配株主持分	385	411
純資産合計	44,241	45,115
負債純資産合計	65,779	66,193

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	40,912	38,051
売上原価	27,034	25,562
売上総利益	13,878	12,489
販売費及び一般管理費	10,935	10,629
営業利益	2,943	1,860
営業外収益		
受取利息	9	8
受取配当金	82	75
不動産賃貸料	54	60
出資金運用益	5	—
その他	31	39
営業外収益合計	181	182
営業外費用		
支払利息	17	19
不動産賃貸費用	11	11
為替差損	103	55
出資金評価損	—	14
その他	42	22
営業外費用合計	173	120
経常利益	2,951	1,921
特別利益		
固定資産売却益	13	7
特別利益合計	13	7
特別損失		
固定資産除却損	19	29
固定資産売却損	1	2
投資有価証券売却損	10	—
和解金	41	—
損害補償損失	100	12
特別損失合計	171	43
税金等調整前四半期純利益	2,793	1,886
法人税等	640	419
四半期純利益	2,153	1,467
非支配株主に帰属する四半期純利益	25	32
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,128	1,435

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	2,153	1,467
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	151	555
為替換算調整勘定	△302	△282
退職給付に係る調整額	△151	60
その他の包括利益合計	△302	333
四半期包括利益	1,851	1,799
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,828	1,774
非支配株主に係る四半期包括利益	23	26



（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	23,919	12,616	4,377	40,912	—	40,912
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注)2	153	0	—	153	△153	—
計	24,072	12,617	4,377	41,065	△153	40,912
セグメント利益(営業利益)	2,019	723	52	2,794	149	2,943

- (注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。
2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。
3. 「企業結合等関係」の「比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し」に記載の取得原価の当初配分額の重要な見直しに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

前第3四半期連結累計期間において、株式取得に伴い、(株)ランドウィックを連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、樹脂事業で561百万円であります。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,733	11,108	4,210	38,051	—	38,051
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注)2	143	0	2	145	△145	—
計	22,876	11,108	4,212	38,196	△145	38,051
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))	1,525	423	△192	1,756	104	1,860

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。
2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（企業結合等関係）

（比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し）

2019年7月1日付での(株)ランドウィックとの企業結合について、前第3四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されております。当該見直しにより、主に無形固定資産である顧客関連資産に631百万円配分された結果、暫定的に算定されたのれんの金額は980百万円から419百万円減少し、561百万円となりました。また、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書の販売費及び一般管理費が9百万円増加した結果、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ9百万円減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益が3百万円減少しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。